

2015年 3月 18日
株式会社 明 電 舎
広報・IR 部長

シンガポール公益事業庁チャンギ水再生センターMBRプラント向けにセラミック平膜として世界最大規模である処理能力15,000m³/日のセラミック平膜を受注

株式会社明電舎(取締役社長 浜崎祐司/以下、明電舎)の現地法人 Meiden Singapore Pte.Ltd.(以下、明電シンガポール)は、シンガポール地場企業よりシンガポール公益事業庁(以下、PUB)のチャンギ水再生センターMBR^(注1)プラント向けのセラミック平膜を受注しました。このプロジェクトは既存設備の増設工事として発注されたもので、2016年完成予定です。

明電シンガポールはチャンギ水再生センターMBRプラントに、処理能力15,000m³/dのセラミック平膜を供給します。今回納入する明電舎製のセラミック平膜は高フラックス^(注2)により安定ろ過を実現させ、省エネにも貢献できるとともに、高耐久性、耐薬品性に優れ、長寿命という特長を持っています。

明電舎は、2010年にPUBと締結した水処理技術の共同開発に関する覚書(MOU)のもと、ジュロン水再生センターなどシンガポール国内の様々な処理場で水処理についての実証研究を進めてきました。これらの実績・成果がPUBに認められ、今回の商用実プラントであるチャンギ水再生センターMBRプラント向けセラミック平膜の受注につながりました。

<PUBチーフテクニカルオフィサーMr. Harry コメント>

PUBの研究開発のコンセプトである、水の安定供給をより確実なものとするため、これまでパートナー会社と一緒に実証試験を行うことにより、効果的な水処理と水資源確保の方法を研究してきました。チャンギ水再生センターへセラミック平膜を導入することは、次世代の水処理研究開発にとって重要な一歩であると考えています。

明電グループは、明電シンガポールを東南アジア・中東地域における水・環境事業のリージョナルヘッドクォーターと位置づけ、その中核拠点として2015年中にセラミック平膜ユニット組立工場を建設して、生産・アフターサービス体制を構築するとともに、研究開発拠点も設置します。今後も、PUBと連携しながらシンガポールの水資源確保、水の安定供給に努めていきます。

また、セラミック平膜を使用した水処理事業を拡大させることで、シンガポール政府が取り組む「グローバル・ハイドロ・ハブ構想」の実現に貢献するとともに、この成果を東南アジアや中東地域への本システム及びセラミック平膜の拡販に活かしていきます。

シンガポール公益事業庁

シンガポールの水供給、貯水池、排水事業を統合管理しているシンガポール 環境・水資源省下の公的機関。

ホームページ <http://www.pub.gov.sg>

明電シンガポール

1975年設立、従業員 350 名、アジア市場向け変圧器、遮断器の製造・販売会社。

資本金 25.4 百万シンガポールドル、2014 年売上 161 百万シンガポールドル

ホームページ <http://www.meidensg.com.sg/index.htm>

注 1) MBR : Membrane Bioreactor (膜分離活性汚泥法) の略称。

下水や工場排水の浄化のために、処理水と活性汚泥の分離を従来の沈殿池のかわりに膜を使用し確実な固液分離を図る方法。

注 2) フラックス : 単位面積当たりのろ過液の透過量のこと、膜透過流束ともいう。

■本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 明電舎 広報・IR部 広報・IR課 TEL : 03-6420-8100

以上